

第 49 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2018.9.10 薦田 麻莉子

『関節リウマチ治療薬

オレンシア皮下注 125mg』

ブリistol・マイヤーズ スクイブ株式会社 井上 奈津さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：熊山 ともみ、相原 美穂、空田 さやか、木村 亜希子、薦田 麻莉子

関節リウマチの治療は、免疫の異常に対して働く薬剤を使用し、関節リウマチの進行を抑える治療を行う。今回は免疫反応に関わる T 細胞を調節し関節の痛み、腫れを緩和するオレンシア(成分名：アバタセプト)の勉強会を行った。

【効能・効果】

関節リウマチ（既存治療で効果不十分な場合に限る）

〈効能又は効果に関連する使用上の注意〉

- (1) 過去の治療において、少なくとも 1 剤の抗リウマチ薬による適切な治療を行っても効果不十分な場合に投与すること。
- (2) 本剤と抗 TNF 製剤の併用は行わないこと。また、本剤と他の生物製剤の併用について、有効性及び安全性は確立していないので、併用を避けること。

【用法・用量】

通常、成人には、投与初日に負荷投与としてアバタセプト（遺伝子組換え）点滴静注用製剤の点滴静注を行った後、同日中に本剤 125mg の皮下注射を行い、その後、本剤 125mg を週 1 回、皮下注射する。また、本剤 125mg の週 1 回皮下注射から開始することもできる。

【禁忌】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 重篤な感染症の患者（症状を悪化させるおそれがある。）

【副作用】

上気道感染 10 例 (16.9%)、口内炎 5 例 (8.5%)、口腔咽頭痛 5 例 (8.5%)、点滴静注用製剤投与群では、上気道感染 14 例 (23.7%)、発疹 4 例 (6.8%)、高血圧 4 例 (6.8%) 等であった

【特徴】

- ・主に獲得免疫に作用し、自然免疫には作用せず感染防御に関わる免疫システムには影響を及ぼしにくいため感染症リスクが少ない
- ・メトトレキサートとオレンシアの併用、オレンシア単体と効果を比較した場合、効果はほぼ同じ
- ・TNF 阻害剤と比較して、重度な感染症の頻度がひくいため高齢者に使用しやすい

【考察】

オレンシアは他のリウマチ治療薬と比較したら、感染症リスクは少ないと学んだが、やはり感染症にかかる可能性はある。そのため服薬指導をする際には、日ごろからうがいや手洗いをし、規則正しい生活をするように指導していき感染症予防に努めたい。特に、気温低く乾燥している冬は特に注意が必要と考えられる。

【質疑応答】

問：規格がシリンジとオートインジェクターとあるがどのように使いわけるか。

答：皮下脂肪が少ない患者さんは、皮膚をつかむのが難しいためオートインジェクターではなくシリンジを使用することがある。